

佐々村得大新田清樂立書

一 寛文四甲辰歲 赤新ヨリ清樂功ハ

清家老 山瀬新ヨリ清樂功ハ

一 延宝三乙卯歲十月止

合拾二年 古肥清樂立成

就神清樂

古肥ヨリ大神樂有

清樂功ハ

古村市郎全ハ

少人配

大山氏

古永七郎全ハ

廣川若全ハ

一 延寶三丙辰年初ハ化功ハ

一 貞享二丁丑年五月廿二日夜洪水

大新田古肥三ハ所ハ不ハ赤新ヨリ清樂功ハ

我々下湯重信成就日一十一年めり
六月末済分湯重信初り十月止有

一頁享三 戊寅年十二月末方山檢地有

檢地有

山口保重殿

氏代

山口重重殿

山郡代

山田守平次殿

口

米田重重殿

十二月末済檢地有

一頁享五 辰二月末済檢地有

山檢地初り

檢地有

氏代

金丸源七郎殿

近江源七郎殿

山郡代

山田守平次殿

口

西川保重殿

一回方六拾五所七五八所就拾五所半

之七百九拾五石四斗二升九合

ノ石法重信主入山田重信成就納山

一回方六拾五所七五八所就拾五所半

之八百九拾五石四斗二升九合

一覽政九已年涉帳字(1999)中書左丞通

元國乃六拾四所
子三拾五名三計
以解三合

拾貳所七五九保貳拾步
之數已二拾三名計共五拾
步

殘

不豫壹圓二錢五分
高七面九拾八粒壹分二厘貳合

市物成細分

一安永二癸巳年三月廿日大新因荒地見名不檢他石

清高相極此

檢地事功部

四部代

川尻武憲
井上家藏

没人帳元

有浦今鑑

疾

南江金次集後

村本虎之助

中舍部之出所

雲浦詩集

玉函小書

代皮

卷之八

漢文
三
八

里
初
母
志

京初民

若初

里玄成
何為

山雲隱居

吾來新邑
二十七歲

大新田前橋大井樋大うて入用土石場小浦御旗此由急節
横芝の通方なきことさうし時古堀よりい場前山所へ付
まゝに相成り申す趣あり川々形なり月を度とせり場お堀
内なる然りなりは流為他同様其外なき第一同様にして荒
蕪成る内常流出来は休良、勝多き才士切なり治と致也
以是分て清何した湯差あるべきなる左様下り水以て有る
ゆゑ其表記により吾桑弁が星一日而文内儀帳内極一
星一日お神浦と名に哉川下新田口程遠なり

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

安永三年二月朔日通和傳
代官原音島 彦公 彦八 彦五 彦三 彦中 彦小

一安永三年二月十日小浦浮地光所寺壇廣新田取之處

大新園外古名徑
門內多芳草
地然乾分滿足分
在

雲

中
十
花
殿

李

昭雅

四部代

井上家

快

米石之助

氏

南江金氏

未寄留二帝後

代友

原野

卷

卷八

山重水复疑无路

古來未有也

炎

石田武助

17

真意有為

七人 公衆より

一安永に末十月に月而傷去名場小浦化助信瑞能
多利得檢地有去名年改通和極中常徳と名去名
戸公と六室物成活惟帳形書お極小去名と付何時
脂と牙大切と下名と

檢地有

新井助平屋

山代

井上安兵衛

信

新井初太郎

浦原屋平屋

代皮

大浦忠兵衛

庄屋

吉田安兵衛

漢

福田辰兵衛

大

吉田安兵衛

去介

小幡中

他人

書

一安永に末八月二月

日名村

大浦忠兵衛大新田井植敷

中付お新

一安永に末年而傷地井植辰兵衛門主と入切入

沖・中・吉・徳・石・井・等・と・切・入

一安永に末年而傷地末光寺今他事

一安永に末八月十七日大新田内井植高、三艘新造

水道に尺五寸長六尺寸

右に付、足程分親等、且、書、又、文化に、丁卯、二月、書、改、

先祖書

吉村市郎為殿代

一吉永佐之太馬十六歲而由當後信長死至二十二年相勅
小次郎仰月三十二年相勅大少次郎仰月貳拾七年
相合六十二年相勅由順手親公知中少性自石藏年
活由附宋之儀元以下重山侍右傳次由重、大少次
郎仰月之親佐之太馬勅之內大少次郎留長仰月九年
相勅由山由信長當由代大少次郎仰月三十二年相勅
由順手親公之親口由中少性自石藏由附當時宋
武儀由仰月之侍右為親右傳次勅之內是留長由

八年付係相勅由山由重親由大少次郎仰月由次郎了則
帝為殿代相合貳拾一年相勅由山由子三月八日病死
仕由侍右傳次親奔為由生三月城由重由由月見
乃仕大少次郎由信長由子三月十二日相勅由山由就由
子三月九日若由山由大少次郎由石國武由仰月由
由山由同由侍右由山由仰月由侍右由重親由二成六月廿三日
由山由十為殿代大少次郎由山由仰月十二年相勅由大
相合貳拾一年相勅由山由侍右由山由大少次郎由山由
由山由大少次郎由山由侍右由山由侍右由山由侍右由
侍右由山由侍右由山由侍右由山由侍右由山由侍右由

部主殿内代親名并氏与改名仕候
一寛政十二甲四月廿日吉永家為右衛門尉治大出候御付
清政之儀市為殿内代

一同年八月奉國上為殿前大員討皇敵御
日年九月方招獲交代御所より奉代御所に九月殿
の御所十月二日急死御所交代御所より九月殿
奉代御所より九月殿交代御所より九月殿
通 日六日平子より右御所より九月殿

三月廿日大少政武助少政御所より九月殿
御所より九月殿交代御所より九月殿
日十九日休日は九月殿交代御所より九月殿

三月廿七日法親大少政中御所より九月殿
武助御所より九月殿交代御所より九月殿

酉三月二日早知奉代御所より九月殿

殿様三市法親御所より九月殿
御所より九月殿交代御所より九月殿
並定御所より九月殿交代御所より九月殿

一平子交代御所より九月殿

一同年五月六日早知奉代御所より九月殿
御所より九月殿交代御所より九月殿
御所より九月殿交代御所より九月殿
御所より九月殿交代御所より九月殿

山指各清和部より

一寛政二 二月八日今福一件 付政隠万年

お設歩人教部より目教左を通り

一諸川板馬屋上下八人 内組川主 大少次 寺波家馬房

一若田十郎 殿上下八人 若水在所此留年主 今是三人 備田甚助 五村金治

一原 半年殿上下八人 巡言今福押仔は作付は 同九月佃川 今所巡押 妙書大少次 石田金治 寺波家馬房

一平田信義人 一利助殿上下二人 大次 井元要八

一若木形馬屋上下八人 一利助殿上下二人 大次 井元要八

一若田十郎 殿上下八人 一利助殿上下二人 大次 井元要八

一若田十郎 殿上下八人 一利助殿上下二人 大次 井元要八

一若田十郎 殿上下八人 一利助殿上下二人 大次 井元要八

一若田十郎 殿上下八人 一利助殿上下二人 大次 井元要八

一若田十郎 殿上下八人 一利助殿上下二人 大次 井元要八

一若田十郎 殿上下八人 一利助殿上下二人 大次 井元要八

山守の

一秋公茂実馬ノ下八人 二月九日お供り九月内川

内川人々留内家老々々

一古川内家老々々上下五人 古川存口

新組氏

一真源公康公下五人 山組拾人出裁 大出 小西幸兵衛

新組氏

一安房公康公下五人 山組出裁 大出 古川和兵衛

新組氏

一高野公康公上下五人 山組出裁 大出 友之次

右三三人志結と相違

源公康公康公下五人 今福 二月廿六日百石者

武松公内川人々内川内家老々々 運送右馬

新組に相違はす 後通口七目平ノ者 戦ノ下

お神内川人々

一三右公康公下五人 山組出裁 大出 郡郷

山組氏

一中清公康公下五人

一右清公康公下五人 田中組通 二月九日お供り三月廿四日

山組氏

一市公恒公康公下五人 大新組

山組氏

一東右内公康公下五人 大工

一右清公康公下八人 山組出裁 九月内川

一南公康公康公下五人 二八お供り三月廿九

家老書好

一神田五石店 上ノ武人 二リハカ 日長カ川 九

西
山
集

一松永隆

二八
リカ
ノミ
川

一山隱居

石印本

右今稿中ノ人氏年十五以上ノ殘今稿ニテ
浦清小松ノ民ノ少少至五ノ所中右清ノ會
久系押屋番と一處也。院川若國内ノ我族波ノ方ヨリ
山越ノ江邊ノ所也。山越族二月十日亥月。今稿ノ人氏等
諸ノ家ノ一ノ所ノ子口也。自江邊ノ所也。人氏等

内府 涉法通、中書亦以僑軍也。其上不妄人完谷の
涉明^{（？）}是^{（？）}也。易節有^{（？）}分保然^{（？）}、平允^{（？）}は物違^{（？）}都令^{（？）}老^{（？）}に人
其^{（？）}所裁^{（？）}人^{（？）}之^{（？）}後^{（？）}日^{（？）}都令^{（？）}之^{（？）}孫^{（？）}人^{（？）}以^{（？）}爲^{（？）}事^{（？）}

李、お酒、夕飯、お役、一、般、早、房、北、通、ま、い、り
滋、川、表、面、之、介、代、傳、中、日、月、八、月、川、右、京、半、午、履
考、得、と、内、城、は、恒、都、く、は、内、所、新、本、

[illegible]

一、寬政二戊八月九日、敕國十為殿、涉用中元、城島、如

山定子藏山歌山重佳絕同目神戶勝其處衆
涉歌以早雪山川溪曲石竹次誥

涉江以早習水門溪曲石徑人迹

日正年子七月廿二日夜大風が近來く大橋を以て倒れ、
所り此處に來りしも高き木あり云々古八分九分二十月
第一の如し

形以延之來市也高生要其地大分九分于周

卷之四

二月 丑月三日 以侯賜馬衣以改至厚漢新衣

一、年正月廿八日，陽鳥啟，陰鳥造，以仰升，右何休，以造，以造。

丑二月十一日 右元初立日 庚日 庚子 初八 庚子 丁未 庚子

水雲隱居

一神戶勝島殿上并七人

吾亦在河山之常流也
卒

人定萬物之靈

此病

一思麻之師年歲上木之人

四

四

二、廉價代價

家公曰子亦古也

近更明文錄卷之二

正月二日臨水戰俘賊級賊子及賊子家私并鎗刀二便及
八次多獲洋銀及金銀器皿等物共計四十二里等物
下為糧食下中藥金銀器皿等物共計四十二里等物
下為糧食下中藥金銀器皿等物共計四十二里等物

八以多海津 為取金此羅 系傷乃六格田 二里

下与梅屋卜中筆屋之留第附未就
下与梅屋卜中筆屋之留第附未就

本經

一寛政六癸二月吉日賜与内出御衣并内出御衣
手廻り等金衣等之御衣等并御衣等御衣等

二年三月廿二日近江郡守及近江郡内出御衣并御衣
内出御衣并御衣并御衣

一寛政七年六月吉日内出御衣并御衣并御衣并御衣

去當年當四月廿二日御衣并御衣并御衣并御衣
中來金衣并御衣并御衣并御衣

一佐々組子配内出御衣并御衣并御衣并御衣并御衣
御衣并御衣并御衣并御衣并御衣

一御衣并御衣并御衣并御衣并御衣

一御衣并御衣并御衣并御衣并御衣

御衣并御衣并御衣并御衣并御衣
御衣并御衣并御衣并御衣并御衣

一御衣并御衣并御衣并御衣并御衣
御衣并御衣并御衣并御衣并御衣
御衣并御衣并御衣并御衣并御衣

右通目之
右部仕名候
而但左也
部之示
爲
居常以

潘允分卿重德方寸以
台野為度今浦為助也
此卿付以

一、日華八月、虎月、大新園外、海墘、漫、其、樂、意、也、何、如、
 也、因、是、分、之、上、御、見、之、也、本、寺、後、為、中、國、可、也、
 一、日、月、月、見、分、也、之、合、人、教、在、通、

神戶港
 同多活
 山江野
 中岡万
 市寺級
 中国万

快

南紀

子

長篇古詩一首
大丑師法之

蘇
大浦家助

伐者

牧心居士

他同身

不亦既

系

石園文集

墨村

吾輩中人

每

恒國書友

一三

方以安

二月九年九月九日 二社宮御幸取御一目的

二月年十月十二日中國三國此日演師中庭下
田師より中や表市口より人々来る

口十五月三合元一 九人教

官邸より本宮邸より 右田より 吉永介より 後田より

山宮より 田師より 初めより 小ほ人中三田尻演師

演師在来 田師 松原 吉永介より

一西領分中より 浮地より 場所 席より 下より 田師より

本宮邸より 吉永代より 吉永介より 吉永介より 吉永介より

演師より 吉永代より 吉永介より 吉永介より 吉永介より

二月九年九月九日 川下浮見下 口三合元一

一木寺邸より 吉永代より 吉永介より 吉永介より

一中國市より 吉永代より 吉永介より 吉永介より

一吉永代より 吉永代より 吉永介より 吉永介より

一吉永代より 吉永代より 吉永介より 吉永介より

吉永代より 吉永代より 吉永介より 吉永介より

一 日 二 月 佐 世 保 澤 尼 卜

一 本 寺 級 方 廣 山内 里 表 澤 方 吉 座 方 山 相 師 豐 助

一 中 田 万 之 忠 廣 山内 里 川 相 方 山 相 師 豐 助

一 日 四 日 早 後 廣 國 德 大 寺 永 澤 尼 卜

一 本 寺 級 方 廣 山内 里 表 澤 方 吉 座 方 山 相 師 豐 助

一 本 寺 級 方 廣 山内 里 表 澤 方 吉 座 方 山 相 師 豐 助

一 日 七 月 江 連 澤 尼 卜 七 龍 長 子 而 另 所 收 正 相 所 之 方 廣

一 本 寺 級 方 廣 山内 里 表 澤 方 吉 座 方 山 相 師 豐 助

一 日 九 月 志 德 澤 尼 卜 山内 里 表 澤 方 吉 座 方 山 相 師 豐 助

一 本 寺 級 方 廣 山内 里 表 澤 方 吉 座 方 山 相 師 豐 助

一 日 二 月 山 内 大 橋 小 橋 澤 尼 卜

一 本 寺 級 方 廣 山内 里 表 澤 方 吉 座 方 山 相 師 豐 助

小字年

023

△寛政十年十月七日吉村高師為成親祖成親沙汰重信
高信常為成親也成親五年壬申自方々來日十月年人
後海早四月也此川後也通具也此川入

二月五日也通具也此川入

△寛政十二年二月五日高信常為成親祖成親沙汰重信
酒井清為成親也成親五年二月也此川後松志也此
高信常為成親也五年壬申自方々來日十月年人
後海早四月也此川後也通具也此川入

△文化二年正月十一日酒井清為成親祖成親沙汰重信
同日也通具也此川入

△文化二年八月十日高信常為成親祖成親沙汰重信
成親祖成親也成親九年二月也此川入

△文化二年正月十一日成親祖成親沙汰重信
成親祖成親也成親九年二月也此川入
高信常為成親也五年壬申自方々來日十月年人
後海早四月也此川後也通具也此川入

小朝 朝花 花に 花に 牙 十月 末 二日 日 元 然 川 元

一申十一月二日唐律略云：水鼓已中，去之，水鼓已中，去之，水鼓已中，去之。

[illegible]

一憲政十三
正月元日光
城例通清
德外史

同年正月十一日浦永告乃就係
 代安古氏乃在松田寺為法事
 進者乃出田係經年所費乃
 主乃亦經

[illegible]

佐々吉永家文書 029

